

# 第4回 あつぎ気候市民会議 会議録

## ■ 日時・場所

日時：2023年9月17日（日）13:00～17:00

場所：アミュあつぎ7階 ミュージックルーム1（A分科会）・2（B分科会）

## ■ 出席者

【A分科会／前半（A-1）：創エネ・エネルギーの地産地消、後半（A-2）：移動・まちづくり】

参加者	23名（欠席3名）：「い」「ろ」「は」「に」の4グループを編成
情報提供者 （前半）	① 遠藤睦子氏（（一社）あつぎ市民発電所） ② 木原浩貴氏（たんたんエナジー株式会社）（オンライン出席） ③ 小野貴朗氏（小田原市環境部 ゼロカーボン推進課）
情報提供者 （後半）	④ 大木俊雄氏（日産自動車株式会社 厚木テクニカルセンター総務部） ⑤ 渡會 祥氏（MONET Technologies 株式会社 MaaS 推進部） ⑥ 利光芳明氏（神奈川中央交通株式会社 総務部）
その他専門家 ・行政	松原弘直氏（環境エネルギー政策研究所（ISEP）） 梶田佳孝氏（東海大学） 吉田清彦氏（厚木市まちづくり計画部都市計画課）
司会	鈴木秀顕氏

【B分科会／前半（B-1）：省エネ・住まい、後半（B-2）：消費・食・農・廃棄】

参加者	17名（欠席6名）：「ほ」「へ」「と」の3グループを編成
情報提供者 （前半）	① 綿田 茜氏（エコ窓普及促進会） ② 伊藤敦範氏（有限会社コムアソシエイツ） ③ 青砥航次氏（NPO 法人神奈川自然保護協会） ④ 山本佳嗣氏（東京工芸大学）
情報提供者 （後半）	⑤ 浅利美鈴氏（京都大学大学院）（オンライン出席） ⑥ 衣川 晃氏（ <sup>ほちいち</sup> 八一農園）
その他専門家 ・行政	村上千里氏（消費生活アドバイザー） 相田征嗣氏（厚木市環境事業課）
司会	岩崎 茜氏

## ■ 配布資料

【事前配布（配信）】

- ・あつぎ気候市民会議 第4回会議案内（A分科会/B分科会）
- ・情報提供者資料（A分科会/B分科会） ※Aの⑤は事前配信なし（印刷資料のみ）
- ・あつぎ気候市民会議アクションプラン作成の枠組み

【補助資料（前回までに配布した者を含む）】

- ・厚木市カーボンニュートラルロードマップと厚木市地球温暖化対策実行計画
- ・太陽光発電のギモン解決！よくある質問15選（パンフレット）
- ・1.5°Cライフスタイルプロジェクト オプションカタログ（相模原市版） 等

## ■ プログラム

A 分科会		
13:00	開会 ふりかえり・今回の内容説明・アクションプラン作成の大前提の説明 アイスブレイク	
13:20	情報提供（前半）【創エネ・エネルギーの地産地消】 ① 市民による再エネ、ソーラーシェアリング ② エネルギーの地産地消・地域新電力 ③ 脱炭素先行地域（小田原市）	① 遠藤睦子氏 ② 木原浩貴氏 ③ 小野貴朗氏
14:10	グループ討議（前半）	
14:57	（休憩：他グループの模造紙を見る）	
15:07	情報提供【移動・まちづくり】 ④ 電気自動車（EV）の動向と活用事例 ⑤ MaaS（マース：Mobility as a Service） ⑥ 公共交通（バス）	④ 大木俊雄氏 ⑤ 渡會 祥氏 ⑥ 利光芳明氏
15:49	グループ討議（後半）	
16:40	（休憩：他グループの模造紙を見る）	
16:50	次回に向けての連絡	
17:00	閉会	

B 分科会		
13:00	開会 ふりかえり・今回の内容説明・アクションプラン作成の大前提の説明 アイスブレイク	
13:20	情報提供（前半）【省エネ・住まい】 ① 窓の断熱 ② 住まいの省エネを考える（設計・建築家） ③ 太陽熱の利用（自然エネルギーを利用した家） ④ 省エネ家電・建物の消費エネルギー	① 綿田 茜氏 ② 伊藤敦範氏 ③ 青砥航次氏 ④ 山本佳嗣氏
13:58	グループ討議（前半）	
14:50	（休憩：他グループの模造紙を見る）	
15:00	情報提供（後半）【消費・食・農・廃棄】 ⑤ 大量消費・大量廃棄を見直すライフスタイル ⑥ 農業・不耕起栽培	⑤ 浅利美鈴氏 ⑥ 衣川 晃氏
15:55	グループ討議（後半）	
16:40	（休憩：他グループの模造紙を見る）	
16:50	次回に向けての連絡	
17:00	閉会	

## 1. 開会 内容説明・アイスブレイク

冒頭では、実行委員会から脱炭素市民アクションプランの作成に向けた説明を行った。まず、分科会で討議を深めていく際に特に留意してほしい点として、アクションプランの主語は「市民」であること、「市民が主体的に行う行動」を念頭に議論してほしいことを強調した。また、これまでのグループ討議の内容を分析して作成した「脱炭素市民アクションプラン枠組み」を示し、今回は「私たちは何をどのようにしたいのか」を文章化することがゴールであるとした。

続いてアイスブレイクでは、グループ内で自己紹介を行った。

## 2. 情報提供（前半）【A-1：創エネ・エネルギーの地産地消】【B-1：省エネ・住まい】

A 分科会では 3 名の情報提供者が事例紹介を行った。①では厚木市内の団体「あつぎ市民発電所」による発電事業やソーラーシェアリングについて、②では京都府（福知山市）の「たんたんエネルギー」が実施する再エネ電力事業及び地域とのつながりについてそれぞれ紹介が行われた。③では、県内の先進事例として、小田原市が実施する脱炭素先行地域の取組の解説が行われた。

B 分科会では 4 名の情報提供者が事例紹介を行った。①では窓断熱リフォーム推進について、②では気密性・断熱性能・耐久性や自然エネルギーの導入設備の観点を重視した住宅建築の提案及び減税制度や補助金事業の提案、③では太陽熱を利用したエネルギー効率の高い住まいの構造と装置の工夫が紹介された。続いて④では、省エネ家電についての解説のほか、日本でも建築物断熱性能表示の義務化が進められていることが紹介された。

## 3. グループ討議（前半）

各情報提供を受けて、重要だと思ったこと・アクションプランに取り入れたいことをピンクの付箋に、実現したいが課題になりそうなことを青い付箋に書き出して討議を進めた。討議の間は、情報提供者及び第 3 回の会議での専門家等が各会場を巡回し、質問への回答やアドバイスを行った。また、最後に、各グループで盛り上がった点や特徴的だった点をファシリテーターが発表した。

A 分科会では、4 グループ全てが太陽光発電の普及について議論を深めた。学校や市役所等の公共施設をはじめ、市内の企業や個人宅などに幅広く太陽光発電施設を設置していくことを目指すとし、そのためには費用や効果を分かりやすく示すことが重要であるほか、普及が進んだ先には地域でのマネジメントの発想が必要となるといった指摘がなされた。設置する場所については、暑さ対策を兼ねた場所（公園や屋外プールの屋根等）や駅前のアーケード等、市の魅力を増やすような提案があった。併せて蓄電池の重要性に触れるグループも多く、蓄電池の各戸配備や EV の利用等のアイデアが挙がった。また、電気システムをハブとして市民のアイデアを集め、地元企業と連携してエコアイテムの開発を進めるといった発展的なアイデアも出されている。

B 分科会では、3 グループとも省エネ・創エネ建築について議論を深めた。太陽光利用装置のコストや手間、廃棄物の課題をクリアにし、行政のチェック体制や基準を設け、取り入れる方法や管理のしやすさを示すことが必要であると指摘がなされた。また、窓や住宅の断熱素材や太陽光利用の仕組みとその価値、省エネ基準などの制度が周知されていないことから、市民が価値を知る学習会や体験会・展示会を開くことが全てのグループで挙がった。さらに、個人宅や賃貸住宅だけでなく、公共施設やビルにおいて、窓断熱や太陽光利用を取り入れやすくするために、市民からも声を上げて情報提供や発信をしていく必要があるとの提案があった。

各グループの討議の概要は一覧表にとりまとめ、別紙として公開する。

#### 4. 情報提供（後半）【A-2：移動・まちづくり】【B-2：消費・食・農・廃棄】

A 分科会では 3 名の情報提供者が事例紹介を行った。④では電気自動車（EV）の普及に係る国内の動向及び自治体における EV の活用事例について、⑤ではモビリティとサービスを組み合わせたサービス MaaS に関し、行政、医療、保健福祉と組み合わせた各事例について紹介が行われた。⑥では神奈川中央交通グループが取り組む EV バスの普及の現状、課題及び解決に向けた方向性が示された。また、最後に厚木市まちづくり計画部からの補足説明が行われた。

B 分科会では 2 名の情報提供者が事例紹介を行った。⑤では、地域の持つ資源や厚木市の魅力を活用した循環型の生産・消費について、またエシカル消費の考え方を持つ市民の育成について提案がなされた。⑥では、これまでの農業の変遷から慣行栽培が必要になった要因を示し、大量生産・大量消費・大量廃棄を解決する環境再生型の不耕起栽培の価値について紹介がなされた。

#### 5. グループ討議（後半）

各情報提供を受けて、前半と同様の手順で話し合いを行い、最後にファシリテーターが発表した。

A 分科会では、EV の活用について議論を深めたグループが多い。企業や行政が積極的に EV のメリットを PR したり、貸出プランを設けて実際に使用してもらうなどのアイデアが出された。EV の目的別乗り合いバスやカーシェアリング等で利用機会を増やすほか、充電施設のシェアも挙げられた。まちづくり面では、「厚木市民はマイカー自己所有ゼロを目指す」とし、車がなくても生活しやすい・車で移動する必要がないまちづくりのためのアイデアとして、公共交通の充実、自転車の活用、新移動手段の導入、カーシェアリング、MaaS 等のサービスを挙げたグループがあったほか、交通量そのものを減らすための乗り入れ制限や、バス専用レーンや自転車専用レーンの導入などについて議論したグループもあった。また、ポイントやマイルなどを設けることで、うまみがあってワクワクする形で行動の転換につながるといった提案もあった。

B 分科会では、衣類の大量廃棄やプラスチックごみの問題について各グループが議論を深めた。具体的な取組のアイデアとして、マイボトルに対応した自動販売機、衣類のリユースやアップサイクル、トレイなどの容器の回収・デポジット制度等が挙げられた。まちづくり・地域活性の面では、エシカル消費を進めるための手法として、量り売り店を増やすことや、リユース・リサイクルを特色とした町おこし、植物で景観をつくること等を挙げたグループがあった。また、循環型・環境再生型の農業の在り方について関心の高い参加者が多く、生ごみ処理機による堆肥と野菜を交換できる仕組みの導入、地産の青果物のアピール、市民が農業に携わる機会を増やすこと等の提案のほか、市の土壌特性を調査することで、特産物や商品開発に繋がり、厚木市の魅力づくりができるのではないかと指摘がなされた。

各グループの討議の概要は、前半の討議と併せて別紙として公開する。

#### 6. 次回に向けての連絡・閉会

以上